

戦争での非劇 平和への努力

読谷小学校 六年 大城 佳奈

私は、この作文を書くために、まず私達に
とっでの平和について考えてみました。私が
まず初めに思ったのは、戦争がないことし
そして、学校に行ったりして楽しく生きる
などという事です。六年生になつて戦争
や平和のことについて調べたり、ポスターな
どを作つていくと、やはり平和ということ
は、戦争がないこと、という思いを強くしま
した。

私が六年生になつて、平和や戦争について
学び心に残つたのは、つあります。
一つ目は、沖縄戦のことを新聞に書くため
に沖縄戦について調べたときです。沖縄戦の
ガマでの暮らしでは、家に行つて畑を耕した
り、火をたくために家へもどつて、空しう
ちをおそれながら波平集落へと走つていま
などという事が書かれていました。私は、そ
の時代に生まれていたら、空しうかがおわく

てガマの半から出られないだろうと思いきし
た。他にも、沖縄戦で一度、首里城がこわれ
てしまった事や、その理由が、そこにかくれ
たり、たてに使ったなどという事が分かって
戦争は色々な物をこわしていくんだ、と思い
ました。

二つ目は、道德の授業で、一羽ばたけ、折
り鶴、という、原爆の子の像のモデルの佐
々木禎子さんの話です。私は、この話を読ん
で、戦争が終わっても、戦争のえいきようで

七くなる人がいる、という事や、禎子さんの
クラスの間が、戦争を失くそうと、一原爆
の子の像を作った、そして世界中から折り
鶴が送られてきた事がとても感動しました。
これは、とくに今でも心に残っています。

三つ目は、この世界の片隅に、という映
画の話です。主人公の女性が福島から嫁ぎに
行くのですが、そのときは戦争中で、親戚の
女の子をっれて見舞いに行くのですが、その
帰りに落ちた後すぐに爆発しなかつた原爆が

爆発してしまい、女の子が七くなってしまう
のです。それを見たときはびっくりしたし、
主人公もうでが矢なくなっ。てしまっ。ていたり、
女の子の母親にせめられたりしていたのを見
て悲しくなりました。

これからは、学んできた事を活かして、
争いを失くして、平和に近づけていきたいです。
戦